

幼稚園の空に悠々と泳ぐ鯉のぼりを見上げながら、「あの鯉さんのお話ですよ」と始めたら子供達はどんなに喜んで聞くことでせう。あの大きな口から雀が入つて遊んだといふ着想がこのお話を可愛いく活かしてゐます。話し方に特別の技巧は要りませんが、鯉と雀との會話は會話らしく聲の調子をかへることが必要でせう。保姆は鯉のぼりに限らず、子供達の身近なもの、親しみをものから取材して、子供達の親愛の心を可愛い、お話の中に表現してやりたいものだと思います。

「赤ん坊爺さん」は草刈に出たお婆さんが山で若返りの水を飲んで娘になつて戻つてきたのでお爺さんもその水を飲みに出かけたがなか／＼歸つて来ない。お婆さんが心配してさがしに行つてみたところが、お爺さんは水をのみすぎて赤ん坊になつてしまつてゐたといふお話です。お婆さんが歸つて来た時のお爺さんの驚き、お婆さんの話、お爺さんが出かけたこと等、筋をはつきり、且緩急よろしきを得た調子で話すことです。子供たちはぐん／＼ついてきて終の頂點で大喜びを致します。

「三匹の子豚」と「どんぐり小坊主」は外國童話の代表的なものゝ一つでせう。いかにも童話らしい童話だと思ひます。子供達に豊かな心の世界を與へる爲には、古今東西あらゆるよいお話を求めて容れるだけの廣い心の保姆でありたいものです。

「三匹の熊」これは繰返しの面白さを主とするお話です。大きなお父さん熊、中位のお母さん熊、小さな子供の熊、この三匹の熊の家へ、留守に花子さんがやつてきてそれ／＼大、中、小の道具をつかつたり、御馳走をたべたりします。その後へ歸つて来た

熊の親子が、それ／＼大、中、小の聲を出して驚くところが繰返してあるのです。「おや！誰かと私の椅子に腰かけた！」お父さんの熊が大きな太い聲で驚いて、どなりました。「おや！私にも！」お母さんの熊が中位の聲で驚いて言ひました。「おや！私のにも。誰でせう、こんなにこわしてしまつて！」子供の熊が小さい聲でびつくりして言ひました。とありますやうに、大、中、小の聲をその感じが出るやうに使つて話すことが大切だと思ひます。聲の大、小だけで面白さがずつと違つて來ますから。

この他、既成談話ではないものですが、今月にはじめて「若葉の話」「春から夏へ」といふ題で觀察話ともいふべきものがとり上げられて居ります。先生がお話を創作せられるのも結構ですし、また語り合ひの形にして、子供達と一しよに、子供たちのみた或は感じた季節の移りかはりを話しあふことも大いにやつていたゞきたいと思ひます。子供は勿論先生からいろ／＼補つていたゞき、教へていたゞくのですが、先生も亦、子供の親方、感じ方に幾多教へられる點があると思ひます。

## 手 技

### 及 川 ふ み

新入幼児たちも、入園後二三週間も経つとよほど幼稚園の生活にもなれて來る。ブランコ、スベリ臺、砂場と自由遊びにも自分からの興味が出て來て、ほんとに幼稚園が愉快そうになつて來る。そればかりでなく年長組の人たちのするいろ／＼のお仕事

(所謂保育の諸事項)にも自ら進んで入らんとする興味も湧いてくる様である。もつともお遊戯や、お話などは外部から受けるものとして入園の當初から始められてゐるものであるが、幼児自らはたらきかけるところの自由畫やお仕事の類の手技は、幼児たちが幼稚園の生活にすつかりなれて來て始めてその芽をのばすものである。

この仕事に對する幼児たちの興味は實に大切なものであつて、これを健全に成長させる事が手技の使命であるといふべきであらう。

前號に手技の導き方について數項に互つて様々述べたのであるが、幼児たちの興味といふ事が手技の指導の最も重要な點であるといふ事はいふまでもない事である。

新入幼児の手技の材料の選擇については一層吟味して、出来るだけ幼児たちの興味のある材料を選ばなくてはならないのである。

幼児たちの興味を惹く材料とはどんなものであらうか。

作るに容易である事は興味をそこなはない一つの大きな要件である。次に作られたものが自分の所有物となりおもちゃとなる事も一層興味を強くするものである。

こゝに最初の一ヶ月の手技の材料について考へて見る事にする。

先づ第一に、平面的な製作物として、帖面なり、或は畫用紙などに貼る材料のものとして

自由切り紙、コッキ、テフテフ

次に、立體的に出來上つたものが、直接幼児たちのおもちやになるものとしての材料

首飾り、輪つなぎ、コマ  
などが考へられる。

次にその各々の材料について説明をつづけて見る。

### 一、自由切り紙

十センチ四方位の大きさの模造紙二枚づつ、を各幼児に任意に切らせて見る。鋏を始めて使つて見るものもあつて何を切るか、あてもなく鋏をたゞ動かしてゐて、またまつた形の切れないものもあるし、又形のとつたものを切る事の出來るものもある。いづれも幼児の説明を求めて帖面にはりつけ説明をかきそへておく。

### 一、コッキ

黄色の模造紙に直径二センチの丸、赤の模造紙に直径六センチの丸を豫め畫いておいて、これを各自にその線をたゞつて切りぬかせる。黄色の丸は國旗の頭としてはりつけ次に竿をかゝせ旗の輪廓を畫かせて赤い丸をはらせる。これは黄い丸、赤い丸を切らせるのが仕事であるから帖面にはるのは保姆がしてよい。

### 一、テフテフ

黄色の模造紙に三角を畫かせて、これを二つづつ、組み合せて蝶々にする。蝶のからだ、觸角など簡單にかけるものにはかゝせる。畫けないものには保姆が手傳ふ事にする。二匹でも三匹でも、興味のあるだけ切らせてみる。國旗と同様にはれるものには貼らせてもよいのであるがこの仕事の主眼とするところは切らせるところにあるのであるから保姆がはつてやつて蝶の羽も畫き觸

角も書いて手傳つてよいわけである。蝶の外に草や、花の畫けるものは自由に畫かせる。

### 一、首飾り

模造紙の櫻、蝶の打抜を使用してもよい。古端書を赤、緑など任意の色にぬりつぶし、これを二センチ四方に細く切つて中心に穴をあけて用意しておく。麥ワラは二センチ位の長さに切つておく。古水引一本。麥ワラと紙とを交互に水引に通してゆく、終りを輪に結ぶ。

この時四角に切つたものを四すみを中心に向つておりさらに半分外へ折りかへして花の形にするとよいがこれは年長組でないとむつかしい。花だけ年長組での仕事としてもらへば誠に好都合である。又麥ワラは色のついたものでなくてよいのであるから春の麥の取り入れの時に心がけて集めておくとよい。これを切るときは濡らせておかないと破損するからこの點も注意しなければならぬ。

### 一、輪つなぎ

古端書を材料として作る

古端書二枚を一枚を赤、一枚を黄に長さ方の上一センチのりしる残して全面ぬりつぶす。幼児の仕事として一時に二枚とも塗つてもよいし、又一枚づつ別々の時の材料としてもよい。次にはがきを縦に長く二つ折りし、さらに二つ折にし又二つ折にする。つまり細長く八本出来る様に折る。これも幼児に出来ればさせるし、むつかしい様であれば保母の方で折目をつけておく。折り目の通り切らせる。八本切る事だけを一度の仕事としてよい。

八本づつ二枚のはがきを切つて十六本つくる。次に一センチの糊代の部分に糊をつけて赤の輪と黄い輪を次々に輪をつなぎながら交互にはつてゆく。はがきの輪つなぎも幼児たちの首飾りにもなれば、お部屋の飾りにもなる。

はがきを材料とした輪つなぎは模造紙などで作つたものよりも紙の質が丈夫な爲に輪がしつかりしてよい。

### 一、コマ

材料は古はがき ヒゴ或は妻揚子

古はがきはがきも新入幼児の特技の材料としてよい。

そのコマの作り方もいろいろ工夫されてよいと思ふのであるが、コマは丸の平均がとれてうまく廻るのであるから圓だけは始めに正確に畫がいておく。二枚のはがきで二つのコマが取れる様に直径七センチ丸二つ、二センチ丸二つ畫く事にする。大きい丸に自由畫を描くか、或は模造紙を細く切つて模様として貼りつけるかする。大小四つの丸を丁寧に切りぬかせる。丸の小さい分はコマの中心を丈夫にするために貼るのであるが大きい丸と配合よく色をぬると美しいコマになる。中心の穴は通すヒゴ或は妻揚子の太さよりも小さい目にかけてヒゴなどがその穴にかたくさる様にする。ヒゴの長さは五センチ位にして下へは一センチ位出しておけばよい。

この他に新入幼児のよろこぶ手技の材料としては粘土がある。粘土は入園當初の幼児にも、又年長組の幼児たちにもいつでも大いに歓迎されるものであるがこれの指導法についても一考を要するところが多い。幼児自身で立體的に形を作り出すものとして、

これほどよい材料はないのであらうと思はれる。

さて以上の材料を實際に取扱ふ上に、一組の幼児の數や、その幼児の智能の發育の程度、或は材料の都合などいろいろのことから、同じ材料で遊ばせるにしても各自指導するものが臨機の指導法を考へなくてはならない事は云ふまでもない。

又材料にしてもこれ以外に適當なものも考へられる事は當然である。常に親しく日頃遊んでゐる幼児たちに最も適切なる材料の提供の出来るものは各幼児の擔當する保母であるから各自持場持場によつてたへず研究する覺悟が手技指導の要諦である。

## 誘導保育

### 菊池ふじの

國民學校令が實施せられて茲に一年。自分が二ヶ年間いづくしめる兒等を送るべき國民學校、それと又、我も亦教育者の一人なり先づ知らざるべけんやといふ二つの意味に於て、この一年間、私共も亦國民學校の勉強にこれ務めて來たのであつた。勉強して見て愈々思ふことは、國民學校低學年の綜合教育が何とこの誘導保育に似てゐることであらう、と云ふことである。例へば陽春四月兒童の生活をとりまく環境が春である場合には、理數科に於ても圖書に於てもまた讀方に於ても春に取材してあり、入學當初には、ヨイコードモにも讀方にも理數科にも到る處、この入學したての生活に取材してゐることは、堀先生御執筆三月號初等科一學年の各

科聯絡一覽表を見ると一目瞭然たるのである。實にこの横の繋りを持つところ、この誘導保育案が、本來幼児の生活の中のものであつた各保育項目を、再び生活の中に綜合し融合してゆくの軌を一にするのである。

も一つは、生活の中に於てとか、兒童の生活に即してとか教師用書には到る處この言葉が用ひられてあるが、この生活に即してゆくやり方はまたこの誘導保育案の爲し來つたところなのである。即ち誘導保育案は、幼児の内にひそんで居り、芽ばえてゐる興味性をとりあげて生活主題として示し促すことによつて幼児の生活目的となり、絶えずこの生活目的に即して、この案の遂行完成をなすのである。

以上の二つの點に於て實に幼稚園と國民學校低學年とが接近して來た感じがするのである。改訂「系統的保育案の實際」の解説には倉橋主幹によつてこの意味がよく盡されてゐる。熟讀玩味せられることをお奨めする次第である。

たゞ茲に注意しなければならないことは、獨り國民學校のみならず我が國の教育全體の根本に於て、天皇陛下の御爲、國の爲にと言ふ強い大目的の下に、總ての小目的は統合せられなければならないといふことである。即ち皇國の道に歸一せしめると言ふことである。今までだつて、この大目的の下にあつたのであるが、時局がこゝまで立ち到つて、今こそ高度國防國家建設の必要に迫られ、鑿國の精神に則つて大東亞共榮圈の確立に邁進しなければならぬ時、國の意志を常に各々の心に意志して、幼稚園の幼児と雖も皇國民の鍊成に向かつて進まなければならないのである。